

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第3回 「那須平成の森の自然 盛夏〜冬」

今回は、夏から冬の自然を紹介していきます。

高原にある那須平成の森の夏は短く、お盆を過ぎれば秋風が立ち始めます。夏の風物詩エゾゼミの鳴き声と同時に、秋の花ヤマハギが咲き、ススキの穂が風になびきます。トンボの仲間アキアカネも群れをなし、追いかける子どもたちの声が響きます。森の中では赤く色づいたキノコ、タマゴタケが彩りを添えます。



8月〜9月はあちこちでタマゴタケが



10月を過ぎると森は落ち葉のじゅうたんに

9月、秋の虫たちの合唱と共に、ヤマトリカブトやリンドウが濃いブルーに咲き、ダケカンバは早々に黄色い葉を散らします。紅葉のピークは、10月中旬から下旬、11月の始めには終わります。新緑から紅葉まで、6カ月ほど私たちが癒してきた植物の緑や紅葉も見納め。やがて、茶臼岳から吹き降りる風で、11月下旬には木々たちは完全に葉を落としますが、一方で、



愛らしいオオカメノキの冬芽



冬の使者ツグミ

冬芽を整え冬への備えは万全。この頃、いつの間にか南方に帰っていった夏鳥に代わり、シベリアの方から、冬鳥たちが渡ってきます。ツグミやアトリといった小鳥たちです。

冬、クリスマススの頃、地面にうつつらと雪が積もります。二ホンヤマネやツキノワグマは冬を乗り切る十分な栄養を蓄え、冬眠場所を見つけられるでしょうか。1月以降、那須平成の森は根雪に覆われ厳冬期に。気温もマイナス10℃を下回ります。そんな中、冬眠しない野鳥やノウサギ、テンなどの哺乳類は餌探しに奔走。春近く、雪解けが進むまで、3カ月ほど厳しい日々が続く。こうして4月を迎え、長い1年が巡ったことになりました。

前回の結びに、「様々な生き物たちがつながり合って生きている」と記しました。私は10年、自然の様子を観てきましたが、年を



冬、ホンドギツネは食べ物を探して歩く、歩く

経る度に、生き物の微妙な変化がわかるようになってきました。「生き物（細胞）がそれぞれつながり合っているからこそ、自然全体（体）を動かし、変化させることができるのだらう」と、『自然は動いている』、この10年で学んだことです。

※今回紹介した植物は、標高800mから1,200m付近で見られるものです。

那須平成の森フィールドセンター
センター長 若林正浩

かつこう

8月の水難事故の件数が、昨年より大幅に増えているとの新聞記事を読み、幼い私に「お盆に水辺に行つてはいけません」と話してくれた祖母を思い出しました。

迷信か教訓かはさておき、祖母や身近なお年寄りから同じように諭されたことがある人も多いのではないのでしょうか。

こんにちは 赤ちゃん



平成30年11月7日生

菊地永真くん (前原)

父 孝行さん
母 真利さん

永真くんは…
食べることとお兄ちゃんが大好き♪

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳)
()の数字は前月比

・世帯数 10,400世帯 (-4)
・人口 24,851人 (-17)
男 12,354人(-5) 女 12,497人(-12)

あなたの「声」をきかせてください

地域の身近な情報や、広報「那須」の感想・ご意見をお待ちしています。
お名前と連絡先とともに下記までお寄せください。

9月21日は「敬老の日」。毎年9月には、各地区の社会福祉協議会が主体となり趣向を凝らした敬老会が開催されますが、今年は今度は中止となりました。

町では、長寿のお祝いに、敬老会の対象者へ、マスクや除菌用ウェットティッシュ、除菌ジェルを詰め合わせた祝品を9月中旬から発送します。新型コロナウイルスはもちろん、インフルエンザの感染予防対策としても、ぜひご利用ください。

☎

中学校総合体育大会(中学校総体)の替わりとして行われた、那須中央中・那須中ソフトボール部3年生の「引退試合」(30頁)。「最後だからこそ勝ちたい」という気持ちで、選手たちのプレーから伝わり、胸が熱くなりました。選手たちの表情は輝き、最後になる試合を本当に楽しんでいました。試合後、後輩たちに「支えてくれてありがとう」と伝えた3年生はみんな笑顔でした。

飯